

# 葉山町地域福祉計画 (素案)

平成24年12月  
葉山町

# 目次

## 第1章 計画策定の趣旨

1 地域福祉計画とは	1
2 本計画と他の計画の位置づけ	2
3 計画の期間	3
4 計画の策定にあたって	4

## 第2章 葉山町における現状

1 人口の推移	6
2 高齢者人口等の推移	7
3 要支援・要介護認定者数の推移	8
4 障害者数の推移	9

## 第3章 アンケート調査からみる現状

1 アンケート調査結果の概要（町民500名抽出）	10
2 アンケート調査結果の概要（サービス利用者等）	25
3 アンケート調査結果に関する団体意見	39

## 第4章 地域福祉に関する課題

1 町民がお互いに助けあえるまちづくり	47
2 気軽に相談できる人、集まれる場所の充実	48
3 地域福祉を進めるための基盤づくり	48

## 第5章 基本的な取り組みの方向

1 町民がお互いに助けあえるまちづくり	49
2 気軽に相談できる人、集まれる場所の充実	50
3 地域福祉を進めるための基盤づくり	51

## 第6章 計画の推進

## 資料編

1 葉山町地域福祉計画策定委員会規則	56
2 葉山町地域福祉計画策定委員会委員名簿	58
3 葉山町地域福祉計画策定過程	59

## 第1章 計画策定の趣旨

### 1 地域福祉計画とは

私たちは、子どもから高齢者や障害のある方までそれぞれ違いはありますが、生活を営む上で多くの悩みや課題を抱えています。

そのような生活上の課題は、まずは個人や家庭において対応し（自助）<sup>1</sup>、個人や家庭で解決できないものは隣人や町内（自治）会・ボランティア・NPO<sup>2</sup>等の活動により取り組み（共助）<sup>3</sup>、個人や地域では解決が困難な場合は行政が担うこと（公助）<sup>4</sup>により解決するような重層的なしくみが必要となってきました。

このように私たちの生活上の課題を解決するために、地域での人と人との繋がりを関わり合いの仕組みをつくりあげていくことを地域福祉といい、高齢者や障害者、子育て世代等の生活上の課題に対する支援を、住民・地域・NPOや福祉関係者などが主体的に行うことができるようサポートするための町の計画を地域福祉計画といいます。

町は、この計画を策定し、地域の福祉力を一層高め、誰もが安全で安心して暮らしてゆける町づくりのために役立ててまいります。

- 
- 1 自助とは、一人ひとりが自ら取り組むこと。
  - 2 NPOとは、「Non-profit Organization」の略で、ボランティア団体や市民活動団体などの「民間非営利組織」を指します。福祉や環境、国際協力、人権問題など社会の様々な課題を解決するという社会的使命の実現を目指して、住民が主体となって活動している組織や団体。
  - 3 共助とは、地域や身近にいる人どうしが一緒に取り組むこと。
  - 4 公助とは、国や地方公共団体などが取り組むこと。



## 2 本計画と他の計画の位置づけ

葉山町地域福祉計画は、社会福祉法第107条に基づく「市町村地域福祉計画」であり、上位計画である「第三次葉山町総合計画」<sup>1</sup>の福祉分野の基本目標である「安全で安心して暮らせるまち」の実現を目指し、葉山町のすべての人々が協働で地域福祉を推進するためのものです。

また、本計画の推進にあたっては、高齢者福祉施策の基本方向や、取り組むべき施策、介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施について定めた「葉山町高齢者福祉計画・介護保険事業計画」、障害者施策全般に関する基本的な計画を定めた「葉山町障害者福祉計画」、子どもと子育て家族を支援するための施策に関する基本的な計画を定めた「葉山町次世代育成支援行動計画」との整合性を図るとともに、実際に福祉活動を行う地域住民やボランティア団体などの民間団体による自主的・自発的な活動を中心として、葉山町社会福祉協議会<sup>2</sup>が策定する「葉山町地域福祉活動計画」とも連携を図る必要があります。

### 社会福祉法 第107条（市町村地域福祉計画）

市町村は、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という。）を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、住民、社会福祉を目的とする事業を営業者その他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるよう努めるとともに、その内容を公表するよう努めるものとする。

- 一 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
- 二 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
- 三 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

---

1 総合計画とは、地方自治体が策定する自治体のすべての計画の基本となる、行政運営の総合的な指針となる計画。

2 社会福祉協議会とは、民間の社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない民間組織です。昭和26年（1951年）に制定された社会福祉事業法（現在の「社会福祉法」）に基づき、設置されています。地域の人々が住み慣れたまちで安心して生活することのできる「福祉のまちづくり」の実現をめざしたさまざまな活動を行っています。

### 3 計画の期間

計画の期間は、平成25年度から平成28年度までの4か年とします。ただし、計画期間中においても、必要に応じて計画の見直しを行うこととします。

第1期			
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
第1期			
			

## 4 計画の策定にあたって

計画の策定にあたっては、「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」、「障害者福祉計画」、「次世代育成支援行動計画」、策定時に行った意識調査、関係団体のヒアリング調査を活用するとともに、本計画策定のため、性別、年齢層別、字別に人口比率で按分し、無作為に抽出した18歳以上の町民500名に行ったアンケート調査及び町のサービス利用者等（町立保育園入所児童の保護者、放課後学童クラブの保護者、障害者支援施設葉山はばたきの通所者、NPO法人青い麦の会トントンの通所者、福祉関係団体の方、災害時要援護者リスト搭載者）へのアンケート調査を行いました。

集計したアンケート調査結果については、福祉関係団体、民生委員児童委員に対して意見聴取を行いました。

また、公募町民や地域で活動する団体の関係者で構成された策定委員会で計画案を検討し、パブリックコメント<sup>1</sup>により、広く町民の意見を募り策定。

### (1) 計画策定のための体制

#### 住民参加による計画策定

計画策定にあたっては、学識経験者、保健医療関係者、福祉関係者、公募及び行政職員からなる委員で構成する「葉山町地域福祉計画策定委員会」が、計画の策定を行い、地域福祉に関する意識や地域での支え合いや日常生活での課題等を調査分析し計画策定の基礎資料とするためのアンケート調査案及びアンケート結果の分析、計画の策定案等を検討。

#### 実態把握

町民の生活実態やニーズ等を把握することを目的にアンケート調査を実施しました。

調査対象	配布数	回収数	回収率
無作為に抽出した18歳以上の町民	500名	245名	49.00%
サービス利用者	264名	101名	38.27%

1 パブリックコメントとは、行政機関が施策等の形式過程を住民に公表し、意見を広く募集するとともに、提出された意見を反映させ、機会を確保することを目的とします。

アンケート調査結果について、福祉関係団体等から意見聴取を実施しました。

広く町民の意見を反映するために、パブリックコメントを実施。

## 第2章 葉山町における現状

### 1 人口の推移

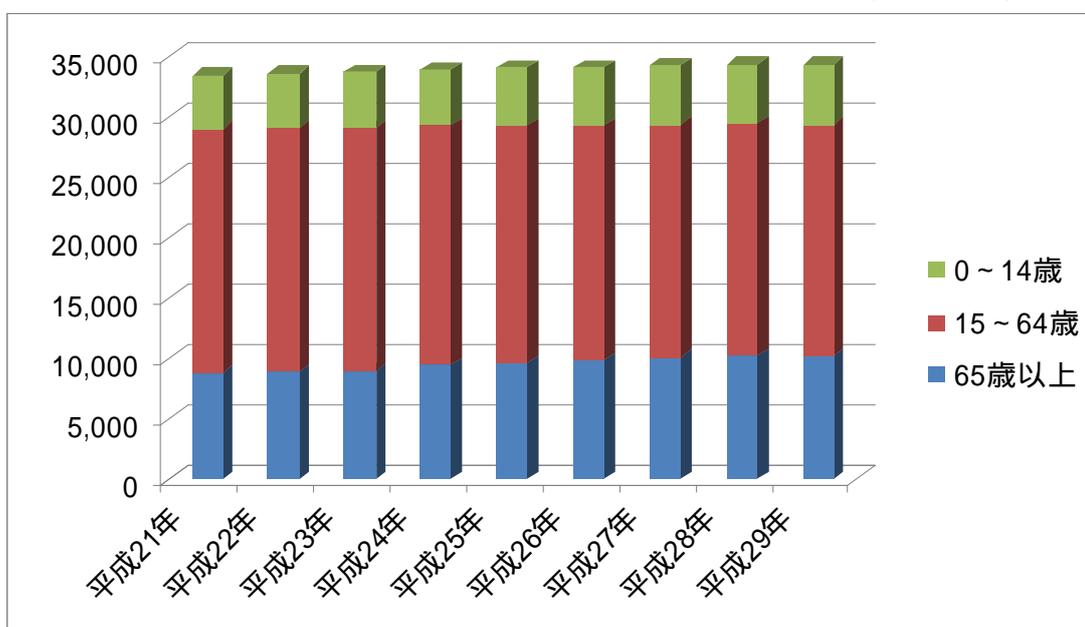
本町の総人口は、平成24年10月1日現在で33,874人（外国人住民を含む）、65歳以上人口は、9,436人となっており、総人口及び高齢者人口とも増加しています。

（単位：人）

区分	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年
65歳以上	8,793	8,924	9,031	9,436	9,676	9,847	10,105	10,217	10,168
15～64歳	20,156	20,114	20,028	19,791	19,561	19,368	19,240	19,147	19,141
0～14歳	4,468	4,565	4,602	4,647	4,748	4,800	4,882	4,944	4,987
総人口	33,417	33,603	33,661	33,874	33,985	34,015	34,227	34,308	34,296

総人口は各年10月1日現在の住民基本台帳  
人口推移はコーホート変化率により推計  
推計値については少数点第1位を四捨五入

（単位：人）



## 2 高齢者人口等の推移

高齢者数の推移をみると、平成21年から平成24年にかけて増加傾向にあるため、平成25年以降も高齢者数は増加するものと推計されます。

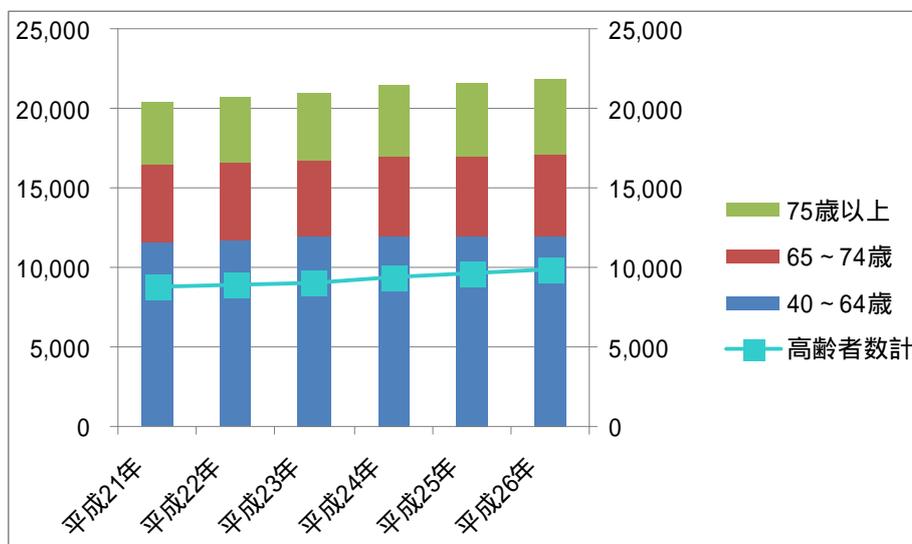
平成24年の高齢者数9,436人に対して、2年後の平成26年には、9,847人と約400人増加する見込みです。

(単位：人)

区分	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年
40～64歳	11,617	11,767	11,942	11,977	11,948	11,938
65～74歳	4,819	4,827	4,757	4,979	5,019	5,168
75歳以上	3,974	4,097	4,274	4,457	4,657	4,679
高齢者数計	8,793	8,924	9,031	9,436	9,676	9,847

人口は各年10月1日現在の住民基本台帳  
人口推移はコーホート変化率により推計  
推計値については少数点第1位を四捨五入

(単位：人)



### 3 要支援・要介護認定者数の推移

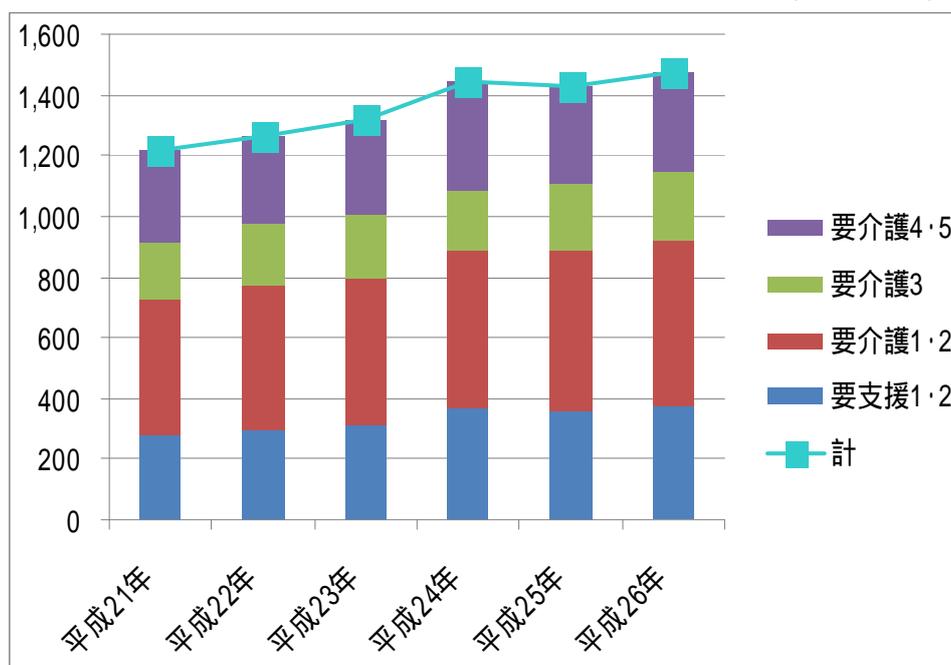
要支援・要介護認定者数の推移をみると、平成21年から平成24年にかけて40歳以上人口が増加傾向にあるため、平成25年以降も認定者数は増加するものと推計されます。

(単位：人)

区分	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年
要支援 1・2	279	321	312	363	357	373
要介護 1・2	449	476	487	527	532	549
要介護 3	189	201	204	198	222	229
要介護 4・5	302	295	313	358	321	325
計	1,219	1,293	1,316	1,446	1,432	1,476

平成21～23年は年報、平成24年は10月1日現在  
平成25年以降は平均値により算出

(単位：人)



#### 4 障害者数の推移

町の障害者数（平成24年4月1日現在 各手帳所持者）は全体で1,189人、その内訳は身体障害者が908人、知的障害者が128人、精神障害者が153人となっています。

総人口に占める障害のある人の割合をみると、身体障害者が2.7%、知的障害者が0.38%、精神障害者が0.45%、全体で3.53%となっています。

(単位：人)

区分	H19年	H20年	H22年	H22年	H23年	H24年
総人口	31,919	33,241	31,711	31,919	33,241	33,661
身体障害者	842	848	881	897	912	908
知的障害者	91	96	100	102	108	128
精神障害者	124	125	122	119	125	153

総人口は各年4月1日現在の住民基本台帳

身体障害者・知的障害者は各年4月1日現在の葉山町障害者台帳

精神は神奈川県精神保健センター「精神保健福祉の現状」（各年3月31日現在）

### 第3章 アンケート調査からみる現状

#### 1 アンケート調査結果の概要（町民500名抽出）

##### あなた自身について

問1 あなたの性別をお答えください。

	男性	女性	合計
回収	96	149	245
割合	39.2%	60.8%	100.0%
発送	233	267	500
回収率	41.2%	55.8%	49.0%

問2 あなたの年齢をお答えください。

年齢 (歳)	18 - 29	30 - 39	40 - 49	50 - 59	60 - 69	70 -	合計
回収	17	26	30	36	56	80	245
割合	6.9%	10.6%	12.2%	14.7%	22.9%	32.7%	100.0%
発送	49	74	95	68	96	118	500
回収率	34.7%	35.1%	31.6%	52.9%	58.3%	67.8%	49.0%

問3 あなたのお住まいはどちらですか。

字	木古庭	上山口	下山口	一色	堀内	長柄	合計
回収	15	12	16	64	70	68	245
割合	6.1%	4.9%	6.5%	26.1%	28.6%	27.8%	100.0%
発送	25	31	42	135	133	134	500
回収率	60.0%	38.7%	38.1%	47.4%	52.6%	50.7%	49.0%

問4 現在一緒に暮らしている家族はあなたを含めて何人ですか。

家族人数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	合計
人	24	84	67	40	22	4	3	244
割合	9.8%	34.4%	27.5%	16.4%	9.0%	1.6%	1.2%	100.0%

問5 あなたの家族構成についてお答えください。

家族構成	単身	夫婦のみ	夫婦と子、又は夫婦と親(二世帯)	母と子または父と子	親・子・孫(三世帯)	その他	合計
人	19	72	97	24	24	9	245
割合	7.8%	29.4%	39.6%	9.8%	9.8%	3.7%	100.0%

問6 あなたは、「福祉」に関心がありますか。(1つ)

回答	人数(人)	割合
ある程度関心がある	152	63.1%
とても関心がある	66	27.4%
あまり関心がない	21	8.7%
全く関心がない	1	0.4%
わからない	1	0.4%
合計	241	100.0%

## 地域との関わりについて

問7 あなたの考える「地域」とはどの範囲のことですか。(1つ)

回 答	人数 (人)	割合
町全体	93	37.3%
町内会(自治会)	86	34.5%
となり近所	36	14.5%
地域を意識したことがない	13	5.2%
小学校区	11	4.4%
字別	4	1.6%
中学校区	2	0.8%
その他	4	1.6%
合計	249	100.0%

問8 あなたは、住んでいる地域に愛着がありますか。(1つ)

回 答	人数 (人)	割合
大いにある	109	45.2%
ある程度ある	95	39.4%
どちらともいえない	25	10.4%
あまりない	12	5.0%
全くない	0	0.0%
合計	241	100.0%

問9 あなたは、地域の人とどのような付き合いをしていますか。(2つまで)

回 答	人数 (人)	割合
顔を合わせればあいさつをする	170	46.3%
会えば立ち話をする	138	37.6%
仲がよく、お互いの家を行き来する	36	9.8%
顔は知っているが、声をかけたことはない	11	3.0%
ほとんど顔も知らない	9	2.5%
その他	3	0.8%
合計	367	100.0%

問10 あなたは地域活動に参加していますか。

回 答	人数 (人)	割合
参加している	94	38.7%
参加していない	149	61.3%
合計	243	100.0%

問11 - 1 参加している地域活動(あてはまるものすべて)  
(問10で「参加している」と答えた方)

回 答	人数 (人)	割合
清掃	63	28.1%
祭り	40	17.9%
資源回収	30	13.4%
各種団体活動	26	11.6%
小中学校行事	19	8.5%
防災訓練	18	8.0%
スポーツ団体	11	4.9%
育児	7	3.1%
老人クラブ活動	4	1.8%
その他	6	2.7%
合計	224	100.0%

問 11 - 2 参加していない理由(3つまで)  
(問 10 で「参加していない」と答えた方)

回 答	人数 (人)	割合
仕事を持っているので時間がない	67	27.5%
興味を持てる活動が見つからない	42	17.2%
地域活動に関する情報がない	37	15.2%
健康や体力に自信がない	31	12.7%
家事・育児に忙しくて時間がない	22	9.0%
病人・高齢者・障害者の介護などで時間がない	20	8.2%
地域にあまり関わりたくない	10	4.1%
地域活動をするうえでの経済的負担が大きい	2	0.8%
家族の理解がない	2	0.8%
地域活動は必要がないと思う	2	0.8%
その他	9	3.7%
合 計	244	100.0%

### 地域の支え合いについて

問 12 困ったときに支えて(手助けして)くれる人は隣近所にいますか。

回 答	人数 (人)	割合
いる	180	74.7%
いない	61	25.3%
合 計	241	100.0%

問 13 - 1 どのようなご関係の方ですか。  
(問 12 で「いる」と答えた方)

回 答	人数 (人)	割合
近隣者	85	27.1%
同居人	76	24.2%
友人・知人	67	21.3%
親戚	58	18.5%
町内会(自治会)	13	4.1%
民生委員児童委員	7	2.2%
NPO ボランティアグループ等	2	0.6%
医師	1	0.3%
その他	5	1.6%
合計	314	100.0%

問 13 - 2 あなたは隣近所の方の支えや手助けを受けることについてどう思いますか。  
(問 12 で「いない」と答えた方)

回 答	人数 (人)	割合
受けたくない	13	24.5%
受けたい	9	17.0%
どちらとも言えない	31	58.5%
合計	53	100.0%

問 13 - 2 - 1 受けたくないと思う理由は何ですか。  
(問 13-2 で「受けたくない」と答えた方)

回 答	人数 (人)	割合
隣近所の方に気を使うのが嫌だから	10	34.5%
プライバシーが守れるかどうか不安だから	8	27.6%
他人の世話になりたくないから	5	17.2%
その他	6	20.7%
合計	29	100.0%

問 14 隣近所の人に手助けしてもらおうとしたらどんなことをしてほしいですか。  
(あてはまるものすべて)

回 答	人数 (人)	割合
災害時の避難支援・安否確認	110	25.5%
安否声掛け	102	23.6%
防犯巡回	71	16.4%
話し相手	34	7.9%
登下校見守り	17	3.9%
悩み事相談	15	3.5%
玄関前の掃除や庭の手入れ	12	2.8%
短時間の子どもの預かり	12	2.8%
買い物手伝い・代行	9	2.1%
電球交換など	9	2.1%
ごみ出し	9	2.1%
屋内清掃や荷物移動	5	1.2%
病気のときの看病	4	0.9%
保育園・幼稚園の送迎	3	0.7%
通院付き添いなど外出同行	2	0.5%
食事の用意	1	0.2%
代読・代筆、電話かけ	0	0.0%
その他	17	3.9%
合計	432	100.0%

問 15 隣近所の人で困っている人がいるとき手助けができますか。

回 答	人数 (人)	割合
はい	198	83.9%
いいえ	38	16.1%
合計	236	100.0%

問 16 隣近所で困っている世帯があった場合、あなたができることは何ですか。  
(当てはまるものすべて)

回 答	人数 (人)	割合
安否声掛け	182	21.0%
災害時の避難支援・安否確認	104	12.0%
話し相手	93	10.7%
ごみ出し	78	9.0%
買い物手伝い・代行	58	6.7%
玄関前の掃除や庭の手入れ	48	5.5%
防犯巡回	48	5.5%
電球交換など	47	5.4%
悩み事相談	45	5.2%
登下校見守り	34	3.9%
短時間の子どもの預かり	27	3.1%
代読・代筆、電話かけ	23	2.7%
通院付き添いなど外出同行	17	2.0%
屋内清掃や荷物移動	15	1.7%
保育園・幼稚園の送迎	14	1.6%
食事の用意	12	1.4%
病気のときの看病	10	1.2%
その他	12	1.4%
合計	867	100.0%

問 17 今、日常生活で困っていることがありますか。(3つまで)

回 答	人数 (人)	割合
特にない	126	39.5%
健康のこと	43	13.5%
災害	34	10.7%
住まい	29	9.1%
経済面	26	8.2%
介護のこと	17	5.3%
近所付き合い	13	4.1%
家族のこと	10	3.1%
子育て	9	2.8%
その他	12	3.8%
合計	319	100.0%

問 18 日常生活で困っていることは誰に相談していますか。(当てはまるものすべて)

回 答	人数 (人)	割合
家族	188	38.9%
友人・知人	107	22.2%
親戚	71	14.7%
近所の人	30	6.2%
かかりつけ医師	25	5.2%
相談をしない	21	4.3%
町役場	15	3.1%
福祉サービス事業者	8	1.7%
相談できる人はいない	6	1.2%
民生委員児童委員	5	1.0%
社会福祉協議会	4	0.8%
ボランティア団体・NPO	1	0.2%
その他(わからない含む)	2	0.4%
合計	483	100.0%

問 19 地域の支えあいの仕組みづくりで、地域の人たちが協力して取り組むべきと思うことはどんなことですか。(3つまで)

回 答	人数 (人)	割合
災害時の助け合い	171	27.1%
ひとり暮らし高齢者(高齢者世帯を含む)支援	141	22.3%
子育て支援	65	10.3%
障害者支援	44	7.0%
地域内ルールの徹底	36	5.7%
地域の道路公園等清掃活動	30	4.7%
祭りなどの交流イベント	30	4.7%
リサイクルや自然保護	25	4.0%
青少年健全育成支援	21	3.3%
健康づくりの支援	18	2.8%
交通安全などの活動	15	2.4%
文化・芸術・スポーツ活動	13	2.1%
住民間トラブルの仲介・解決	10	1.6%
特にない	9	1.4%
その他	4	0.6%
合計	632	100.0%

### ボランティア活動・地域活動について

問 20 ボランティア活動をしたことがありますか。(1つ)

回 答	人数 (人)	割合
ある	85	35.9%
ない	152	64.1%
合計	237	100.0%

問 21-1 どんなボランティアをしましたか。  
(問 20 で「ある」と答えた方)

回 答	人数 (人)	割合
高齢者関係	30	22.9%
環境関係	27	20.6%
障害者関係	19	14.5%
子育て関係	16	12.2%
青少年関係	7	5.3%
保健・医療関係	6	4.6%
その他	26	19.8%
合計	131	100.0%

問 21 2 ボランティアをしたことがないのはどんな理由からですか。(3 つまで)  
(問 20 で「ない」と答えた方)

回 答	人数 (人)	割合
仕事や家事	67	25.0%
健康に自信がない	40	14.9%
拘束されやめられなさそう	37	13.8%
身近に活動できるものがない	31	11.6%
きっかけがない	29	10.8%
ボランティアに興味・関心がない	20	7.5%
育児や介護	18	6.7%
人と接するのを好まない	12	4.5%
費用がかかりそう	4	1.5%
その他	10	3.7%
合計	268	100.0%

問 22 今後、ボランティア活動の輪を広げていくために、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで)

回 答	人数 (人)	割合
学校教育の一環とする	104	21.9%
情報提供を積極的に行う	95	20.0%
交通費など実費の補助	82	17.3%
ボランティア活動に場所を提供	44	9.3%
研修開催等で人材を養成する	42	8.8%
ボランティア休暇等企業の協力	38	8.0%
地域での子どもボランティア活動を活発に行う	37	7.8%
わからない	25	5.3%
その他	8	1.7%
合計	475	100.0%

問 23 あなたは葉山町社会福祉協議会を知っていますか。

回 答	人数 (人)	割合
名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない	151	65.1%
名前も活動の内容も良く知っている	48	20.7%
名前も活動の内容も知らない	33	14.2%
合計	232	100.0%

問 24 あなたは民生委員児童委員を知っていますか。

回 答	人数 (人)	割合
名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない	120	51.7%
名前も活動の内容も良く知っている	54	23.3%
名前も活動の内容も知らない	58	25.0%
合計	232	100.0%

問 25 あなたの担当民生委員児童委員を知っていますか。

回 答	人数 (人)	割合
知っている	74	31.9%
知らない	158	68.1%
合計	232	100.0%

### 地域福祉のあり方について

問 26 これからの葉山町の福祉は何を重点にすべきだと思いますか。(3つまで)

回 答	人数 (人)	割合
住民がお互いに助け合えるまちづくり	138	26.7%
気軽に相談できる人、集まれる場の充実	86	16.6%
在宅福祉を支えるサービスの充実	81	15.7%
個人の自立を支援するサービスの充実	60	11.6%
保育園・幼稚園など子どもの頃からの教育	47	9.1%
公共の場の段差解消などの福祉のまちづくり	32	6.2%
ボランティア団体など町民活動への援助	33	6.4%
手当てなど金銭的な援助	31	6.0%
特に必要と思うものはない	5	1.0%
その他	4	0.8%
合計	517	100.0%

問 27 福祉や健康に関する情報を何から入手していますか。(当てはまるものすべて)

回 答	人数 (人)	割合
広報紙「広報はやま」	164	23.5%
回覧板	116	16.6%
新聞	86	12.3%
テレビ・ラジオ	85	12.2%
家族や友人・知人	66	9.5%
インターネット	52	7.4%
社会福祉協議会広報紙「社会福祉協議会だより」	46	6.6%
書籍・雑誌	28	4.0%
特に入手していない	22	3.2%
近所の人	21	3.0%
民生委員児童委員	5	0.7%
その他	7	1.0%
合計	698	100.0%

問 28 福祉や健康についてどんな情報を知りたいですか。(3つまで)

回 答	人数 (人)	割合
サービス利用方法について	122	24.4%
提供事業者のサービス内容について	85	17.0%
健康づくりについて	65	13.0%
高齢者や障害者について	45	9.0%
健康や生きがい作りのための学習機会について	40	8.0%
子育てについて	34	6.8%
ボランティアやNPO等の活動について	30	6.0%
介護保険について	30	6.0%
住宅や福祉機器について	22	4.4%
特にない	25	5.0%
その他	3	0.6%
合計	501	100.0%

問 29 地域の人々がお互い力を合わせて、住みよい地域社会を実現していくうえで問題となることは何だとお考えですか。

回 答	人数 (人)	割合
近所づきあいが減っていること	131	27.5%
地域での交流機会が少ないこと	67	14.1%
日中、地域を離れている人が多いこと	61	12.8%
地域活動への若い人の参加が少ないこと	51	10.7%
地域に関心がない人が多いこと	47	9.9%
町内会・自治会活動などに参加しにくい雰囲気があること	41	8.6%
他人に干渉されプライバシーが守られないこと	41	8.6%
助け合い、支え合いは必要ないと考えている人が多いこと	25	5.3%
ひとり親家庭、障害者家庭への偏見があること	9	1.9%
その他	3	0.6%
合計	476	100.0%

問 30 今住んでいる地域で災害発生後どんな活動をしたいと思いますか。(3つまで)

回 答	人数 (人)	割合
ひとり暮らし高齢者への声かけ	138	27.5%
安全な場所への誘導	87	17.4%
救助活動	66	13.2%
情報の提供	66	13.2%
水や食料の提供	65	13.0%
障害者への声かけ	54	10.8%
活動したいと思わない	6	1.2%
その他	19	3.8%
合計	501	100.0%

## 2 アンケート調査結果の概要（サービス利用者等<sup>1</sup>）

### あなた自身について

問1 あなたの性別をお答えください。

	男性	女性	合計
回収	29	72	101
配付	-	-	264
回収率	-	-	38.3%

問2 あなたの年齢をお答えください。

年齢	18-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	合計
回収	12	40	29	7	7	6	101
割合	11.9%	39.6%	28.7%	6.9%	6.9%	5.9%	100.0%

問3 あなたのお住まいはどちらですか。

字	木古庭	上山口	下山口	一色	堀内	長柄	合計
回収	5	10	10	36	17	23	101
割合	5.0%	9.9%	9.9%	35.6%	16.8%	22.8%	100.0%

問4 現在一緒に暮らしている家族はあなたを含めて何人ですか。

家族人数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	8人	合計
人	2	17	26	37	14	4	1	101
割合	2.0%	16.8%	25.7%	36.6%	13.9%	4.0%	1.0%	100.0%

問5 あなたの家族構成についてお答えください。

家族構成	単身	夫婦のみ	夫婦と子、または親(二世帯)	母と子または父と子	親・子・孫(三世帯)	その他	合計
人	2	1	57	18	15	4	97
割合	2.1%	1.0%	58.8%	18.6%	15.5%	4.1%	100.0%

---

1 サービス利用者等とは、町立保育園入所児童の保護者、放課後学童クラブの保護者、障害者支援施設葉山はばたきの通所者、NPO法人青い麦の会トントンの通所者、福祉関係団体の方、災害時要援護者リスト搭載者です。

問6 あなたは、「福祉」に関心がありますか。(1つ)

回 答	人数(人)	割合
ある程度関心がある	53	53.0%
とても関心がある	36	36.0%
あまり関心がない	7	7.0%
全く関心がない	1	1.0%
わからない	3	3.0%
合計	100	100.0%

### 地域との関わりについて

問7 あなたの考える「地域」とはどの範囲のことですか。(1つ)

回 答	人数(人)	割合
町全体	48	47.1%
町内会(自治会)	27	26.5%
小学校区	9	8.8%
地域を意識したことがない	8	7.8%
となり近所	7	6.9%
字別	1	1.0%
中学校区	0	0.0%
その他	2	2.0%
合計	102	100.0%

問8 あなたは、住んでいる地域に愛着がありますか。(1つ)

回 答	人数(人)	割合
ある程度ある	46	46.0%
大いにある	43	43.0%
どちらともいえない	6	6.0%
全くない	3	3.0%
あまりない	2	2.0%
合計	100	100.0%

問9 あなたは、地域の人とどのような付き合いをしていますか。(2つまで)

回 答	人数(人)	割合
顔を合わせればあいさつをする	65	42.5%
会えば立ち話をする	53	34.6%
仲がよく、お互いの家を行き来する	22	14.4%
ほとんど顔も知らない	7	4.6%
顔は知っているが、声をかけたことはない	3	2.0%
その他	3	2.0%
合計	153	100.0%

問10 あなたは地域活動に参加していますか。

回 答	人数(人)	割合
参加している	51	51.5%
参加していない	48	48.5%
合計	99	100.0%

問 11 - 1 参加している地域活動（あてはまるものすべて）  
（問 10 で「参加している」と答えた方）

回 答	人数(人)	割合
祭り	33	23.4%
清掃	29	20.6%
小中学校行事	24	17.0%
資源回収	15	10.6%
各種団体活動	14	9.9%
育児	12	8.5%
防災訓練	6	4.3%
スポーツ団体	5	3.5%
老人クラブ活動	2	1.4%
その他	1	0.7%
合計	141	100.0%

問 11 - 2 参加していない理由（3つまで）  
（問 10 で「参加していない」と答えた方）

回 答	人数(人)	割合
仕事を持っているので時間がない	27	32.9%
家事・育児に忙しくて時間がない	18	22.0%
興味の持てる活動が見つからない	10	12.2%
健康や体力に自信がない	9	11.0%
地域活動に関する情報がない	8	9.8%
地域にあまり関わりたくない	3	3.7%
病人・高齢者・障害者の介護などで時間がない	2	2.4%
地域活動をするうえでの経済的負担が大きい	0	0.0%
家族の理解がない	0	0.0%
地域活動は必要がないと思う	0	0.0%
その他	5	6.1%
合計	82	100.0%

## 地域の支え合いについて

問 12 困ったときに支えて(手助けして)くれる人は隣近所にいますか。

回 答	人数(人)	割合
いる	89	89.9%
いない	10	10.1%
合計	99	100.0%

問 13-1 どのようなご関係の方ですか。  
(問 12 で「いる」と答えた方)

回 答	人数(人)	割合
友人・知人	46	27.7%
近隣者	41	24.7%
同居人	32	19.3%
親戚	30	18.1%
町内会(自治会)	5	3.0%
民生委員児童委員	5	3.0%
医師	2	1.2%
NPO ボランティアグループ等	1	0.6%
その他	4	2.4%
合計	166	100.0%

問 13-2 あなたは隣近所の方の支えや手助けを受けることについてどう思いますか。  
(問 12 で「いない」と答えた方)

回 答	人数(人)	割合
受けたい	4	40.0%
どちらとも言えない	6	60.0%
受けたくない	0	0.0%
合計	10	100.0%

問 13-2-1 受けたくないと思う理由は何ですか。  
 (問13-2で「受けたくない」と答えた方)

回 答	人数(人)	割合
隣近所の方に気を使うことが嫌だから	1	100.0%
プライバシーが守れるかどうか不安だから	0	0.0%
他人の世話になりたくないから	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	1	100.0%

問 14 隣近所の人に手助けしてもらおうとしたらどんなことをしてほしいですか。  
 (あてはまるものすべて)

回 答	人数(人)	割合
災害時の避難支援・安否確認	45	16.7%
安否声掛け	42	15.6%
防犯巡回	25	9.3%
話し相手	19	7.1%
登下校見守り	26	9.7%
悩み事相談	17	6.3%
玄関前の掃除や庭の手入れ	4	1.5%
短時間の子どもの預かり	30	11.2%
買い物手伝い・代行	10	3.7%
電球交換など	4	1.5%
ごみ出し	5	1.9%
屋内清掃や荷物移動	5	1.9%
病気のときの看病	9	3.3%
保育園・幼稚園の送迎	14	5.2%
通院付き添いなど外出同行	3	1.1%
食事の用意	8	3.0%
代読・代筆、電話かけ	0	0.0%
その他	3	1.1%
合計	269	100.0%

問 15 隣近所の人で困っている人がいるとき手助けができますか。

回 答	人数(人)	割合
はい	76	76.8%
いいえ	23	23.2%
合計	99	100.0%

問 16 隣近所で困っている世帯があった場合、あなたができることは何ですか。  
(あてはまるものすべて)

回 答	人数 (人)	割合
安否声掛け	68	17.1%
話し相手	46	11.6%
ごみ出し	44	11.1%
買い物手伝い・代行	32	8.0%
災害時の避難支援・安否確認	31	7.8%
短時間の子どもの預かり	31	7.8%
悩み事相談	29	7.3%
電球交換など	24	6.0%
保育園・幼稚園の送迎	17	4.3%
防犯巡回	15	3.8%
登下校見守り	15	3.8%
代読・代筆、電話かけ	13	3.3%
玄関前の掃除や庭の手入れ	9	2.3%
食事の用意	7	1.8%
通院付き添いなど外出同行	6	1.5%
屋内清掃や荷物移動	5	1.3%
病気のときの看病	2	0.5%
その他	4	1.0%
合計	398	100.0%

問 17 今、日常生活で困っていることがありますか。(3つまで)

回 答	人数(人)	割合
経済面	32	20.5%
特にない	24	15.4%
健康のこと	22	14.1%
子育て	19	12.2%
災害	14	9.0%
住まい	14	9.0%
近所付き合い	11	7.1%
家族のこと	11	7.1%
介護のこと	6	3.8%
その他	3	1.9%
合計	156	100.0%

問 18 日常生活で困っていることは誰に相談していますか。(あてはまるものすべて)

回 答	人数(人)	割合
家族	81	35.8%
友人・知人	48	21.2%
親戚	24	10.6%
かかりつけ医師	14	6.2%
福祉サービス事業者	12	5.3%
町役場	11	4.9%
近所の人	10	4.4%
相談をしない	8	3.5%
相談できる人はいない	8	3.5%
ボランティア団体・NPO	4	1.8%
社協	3	1.3%
民生委員	0	0.0%
その他(わからない含む)	3	1.3%
合計	226	100.0%

問 19 地域の支えあいの仕組みづくりで、地域の人たちが協力して取り組んでいくべきと思うことはどんなことですか。(3つまで)

回 答	人数(人)	割合
災害時の助け合い	67	24.5%
ひとり暮らし高齢者(高齢者世帯を含む)支援	61	22.3%
子育て支援	42	15.4%
障害者支援	36	13.2%
祭りなどの交流イベント	20	7.3%
青少年健全育成支援	10	3.7%
地域内ルールの徹底	7	2.6%
リサイクルや自然保護	7	2.6%
交通安全などの活動	6	2.2%
地域の道路公園等清掃活動	4	1.5%
文化・芸術・スポーツ活動	4	1.5%
住民間トラブルの仲介・解決	3	1.1%
健康づくりの支援	2	0.7%
特にない	1	0.4%
その他	3	1.1%
合計	273	100.0%

### ボランティア活動・地域活動について

問 20 ボランティア活動をしたことがありますか。(1つ)

回 答	人数(人)	割合
ある	49	50.0%
ない	49	50.0%
合計	98	100.0%

問 21-1 どんなボランティアをしましたか。  
(問 20 で「ある」と答えた方)

回 答	人数(人)	割合
障害者関係	19	28.4%
高齢者関係	15	22.4%
子育て関係	15	22.4%
環境関係	12	17.9%
青少年関係	4	6.0%
保健・医療関係	0	0.0%
その他	2	3.0%
合計	67	100.0%

問 21-2 ボランティアをしたことがないのはどんな理由からですか。(3つまで)  
(問 20 で「ない」と答えた方)

回 答	人数 (人)	割合
仕事や家事	25	28.7%
育児や介護	22	25.3%
健康に自信がない	8	9.2%
身近に活動できるものがない	7	8.0%
ボランティアに興味・関心がない	7	8.0%
人と接するのを好まない	6	6.9%
きっかけがない	5	5.7%
拘束されやめられなさそう	1	1.1%
費用がかかりそう	1	1.1%
その他	5	5.7%
合計	87	100.0%

問 22 今後、ボランティア活動の輪を広げていくために、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで)

回 答	人数(人)	割合
学校教育の一環とする	44	20.1%
情報提供を積極的に行う	43	19.6%
交通費など実費の補助	42	19.2%
ボランティア休暇等企業の協力	31	14.2%
地域での子どもボランティア活動を活発に行う	22	10.0%
ボランティア活動に場所を提供	19	8.7%
研修開催等で人材を養成する	10	4.6%
わからない	8	3.7%
その他	0	0.0%
合計	219	100.0%

問 23 あなたは葉山町社会福祉協議会を知っていますか。

回 答	人数(人)	割合
名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない	58	60.4%
名前も活動の内容も良く知っている	26	27.1%
名前も活動の内容も知らない	12	12.5%
合計	96	100.0%

問 24 あなたは民生委員児童委員を知っていますか。

回 答	人数(人)	割合
名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない	55	56.7%
名前も活動の内容も良く知っている	28	28.9%
名前も活動の内容も知らない	14	14.4%
合計	97	100.0%

問 25 あなたの担当民生委員児童委員を知っていますか。

回 答	人数(人)	割合
知っている	41	41.8%
知らない	57	58.2%
合計	98	100.0%

### 地域福祉のあり方について

問 26 これからの葉山町の福祉は何を重点にすべきだと思いますか。(3つまで)

回 答	人数(人)	割合
住民がお互いに助け合えるまちづくり	54	22.9%
手当てなど金銭的な援助	32	13.6%
気軽に相談できる人、集まれる場の充実	31	13.1%
保育園・幼稚園など子どもの頃からの教育	30	12.7%
在宅福祉を支えるサービスの充実	26	11.0%
個人の自立を支援するサービスの充実	23	9.7%
公共の場の段差解消などの福祉のまちづくり	17	7.2%
ボランティア団体など町民活動への援助	16	6.8%
特に必要と思うものはない	3	1.3%
その他	4	1.7%
合計	236	100.0%

問 27 福祉や健康に関する情報を何から入手していますか。(あてはまるものすべて)

回 答	人数 (人)	割合
広報紙「広報はやま」	70	25.6%
回覧板	52	19.0%
インターネット	30	11.0%
家族や友人・知人	29	10.6%
新聞	22	8.1%
テレビ・ラジオ	18	6.6%
近所の人	16	5.9%
社会福祉協議会広報紙「社会福祉協議会だより」	14	5.1%
書籍・雑誌	10	3.7%
特に入手していない	6	2.2%
民生委員・児童委員	4	1.5%
その他	2	0.7%
合計	273	100.0%

問 28 福祉や健康についてどんな情報を知りたいですか。(3つまで)

回 答	人数 (人)	割合
子育てについて	39	21.9%
サービス利用方法について	33	18.5%
ボランティアや NPO 等の活動について	23	12.9%
高齢者や障害者について	22	12.4%
住宅や福祉機器について	16	9.0%
健康づくりについて	13	7.3%
提供事業者のサービス内容について	11	6.2%
健康や生きがい作りのための学習機会について	9	5.1%
特にない	7	3.9%
介護保険について	3	1.7%
その他	2	1.1%
合計	178	100.0%

問 29 地域の人々がお互い力を合わせて、住みよい地域社会を実現していくうえで問題となることは何だとお考えですか。

回 答	人数(人)	割合
近所づきあいが減っていること	50	27.0%
地域に関心がない人が多いこと	22	11.9%
地域活動への若い人の参加が少ないこと	21	11.4%
地域での交流機会が少ないこと	19	10.3%
町内会・自治会活動などに参加しにくい雰囲気があること	18	9.7%
ひとり親家庭、障害者家庭への偏見があること	17	9.2%
日中、地域を離れている人が多いこと	16	8.6%
助け合い、支え合いは必要ないと考えている人が多いこと	10	5.4%
他人に干渉されプライバシーが守られないこと	8	4.3%
その他	4	2.2%
合計	185	100.0%

問 30 今住んでいる地域で災害発生後どんな活動をしたいと思いますか。(3つまで)

回 答	人数(人)	割合
ひとり暮らし高齢者への声かけ	47	24.2%
障害者への声かけ	31	16.0%
安全な場所への誘導	31	16.0%
救助活動	29	14.9%
情報の提供	24	12.4%
水や食料の提供	20	10.3%
活動したいと思わない	4	2.1%
その他	8	4.1%
合計	194	100.0%

### 3 アンケート調査結果に関する団体意見

(いただいた意見は、基本的にそのまま掲載しています。)

#### (1) 回答団体名 民生委員・児童委員協議会

##### 【意見】

- \* 問1から3に関して、  
回答者の無作為抽出だと、性別、年齢、住所等に偏りが生じているが、これでは些かの確で公正な意見の収集には不適當ではないか？
- \* 地域との関わりについて、  
地域の範囲～町全体、町内会、隣近所との関わりはかなり高率であり希望の持てる数値である。  
問8～地域への愛着あり。  
問9～地域内での付き合いと数値も高い数値で大変良い。  
問10～その反面地域活動に不参加の数が多いのは？機会不足？意識の啓蒙不測？情報不足？いろいろと対策を立てる参考になるのでは(問11を参考)
- \* 地域の支え合いについて、  
問12 困ったときに支えてくれる人が近所にいるというのはかなり高い数値ではないか？  
問13-2-1 民生委員活動の際の注意事項として、肝に銘じなければ。  
問19 民生委員活動の重点目標となる。  
問24 民生委員の名前、活動内容もよく知らない25%、名前は知ってるが内容をよく知らない51,7%、理由はなんであれPRの絶え間ない努力と効果的なPRの方法を検討。  
問25 少なくとも年に一度はリーフレット等を担当地域へ配布することに努める。
- \* 地域福祉のあり方について  
民生委員児童委員活動の今後のあり方についても、大変参考になる資料であると考えます。
- \* 全般的に大変良好な数値の結果のように感じられます。  
今後、この結果をよく分析してより良い方向へ向かうよう努力しなければならいと思います。
- \* 独居、高齢化夫婦、母子・父子家庭の増加が明確化。
- \* 町内(自治)会への関心の薄さを感じる。交わるのは隣近所だけで充分と考えている人が多いように見受けられる。
- \* 隣近所との付き合いの希薄化が窺われる。
- \* 地域活動内容の見直しが必要。

- \* 最低限隣近所と良い関係を保つ必要性をもっと知ってもらうようにする必要あり。
- \* 民生委員はそれほど頻繁に訪問活動は出来ない。やはりいざとなると隣近所の力が必要。
- \* 民生委員の存在の希薄化。今の時代民生委員は本当に必要なのか？
- \* ボランティア活動にも行政の補助を。
- \* 「広報はやま」の更なる充実を願う。特に民間の「子育て支援」活動も行政の日程の中に組み入れて欲しい。
- \* 社会福祉協議会の活動をもっと頻繁に具体的にPRする必要性を感じる。
- \* 回答者の年齢層が広く問題はどこにあるのか分かりません。
- \* あなたの考える「地域」の範囲は町全体の回答者が多い。  
町全体で地域の福祉を考える事は無理だと思います。自治会の理事は毎年変わります。様々な方がいます。監視されているような感覚を持つ当事者もいると思います。民生委員児童委員の見守り、訪問を増やす？事が良いのでしょうか。
- \* 若い方はプライバシーを気にするあまり、隣近所のお付き合いが希薄です。災害等が起きた場合、日常防災においても子ども、障がい者、高齢者等顔見知りの、隣近所の援助が必要だと思います。
- \* この規模の町で、顔は知っているが声をかけることがなかったり、顔も知らなかったりという人がいるのはちょっと意外だった。  
新しく越してきた方なのかもしれないが。
- \* 地域活動にもっと参加してもらうにはどうしたら良いのかと考えさせられる数字だと思う。興味を持てる活動がないという人にはどういふものなら参加するのか聞いてみたい。地域とあまり関わりたくないと思っている人はどうしてなのか。
- \* やはり災害時の事については関心が高いのだと思う。
- \* ボランティア活動への関心をもっと高めたい。ボランティアに興味がないという回答が結構多い？ので驚いたが、比べるデータがないので実際はどうなるのだろう？  
情報提供がなされていないという回答が多かったが、この辺りは改善できるのか？  
学校教育の一環でという回答には賛成できる。
- \* 民生委員児童委員をやはり知らない人が多いことにちょっとがっかり  
特に若い世代は知らないだろう。  
でも自分も葉山に来るまで知らなかったの、こればかりは仕方ないかとも思う。
- \* 災害発生後に活動したいと思わない、そこに数が入っていたのにはびっくり。

まあご自身の体調とかいろいろな事があっての回答だと思いたいが、もし本当に活動したいと思わないとしたら、悲しいことだと思う。

- \* このデータをどのように生かすのか？何が導きだせるのか？期待して結果を待ちたいと思う。
- \* もし他の市町でも同じようなアンケートをやっているなら、比較のようなものがあると、良いとも思うのだが。葉山のデータだけでは、これって多いの？少ないの？関心が高いの？低いの？という？？？ばかりになってしまう。
- \* 地域活動への参加が、地域福祉推進を考えると参加する人が少ないと思います。
- \* ボランティア活動をしたことがない理由で、「拘束され、やめられなさそう」は辛かったり、その状況に無理があったりしても続けなければいけないという事ですか？
- \* 葉山町社会福祉協議会を知らない人が多いので、もっと情報や活動内容を多く知らせてPRをするといいと思います。
- \* 町内（自治）会に入会しない人が増えています。地元のひとと新しい住民との考えが違う事があってまとまりにくい。交流機会を多く持つ事によって協力、助け合いが出来ると思います。
- \* 地域のコミュニケーションをはかるには「まず挨拶から」。地域での取り組みが必要。
- \* 地域活動への参画の呼びかけ不足か？工夫して積極的に参加させる仕組が肝要。
- \* 高齢化・少人数家庭化（夫婦のみなど）の中で地域活動を通しての近隣との接触は大切なこと。
- \* 災害時の支援は、現実では我が身・我が家族の非難が優先されるので、ほかへの支援の過剰期待は難しい。
- \* 隣近所の人で困っている人がいるとき手助けができる為には、日頃からの付き合いが必要。
- \* 隣近所の人で困っている世帯があった場合、安否声掛け程度までか。生活の中まで首を突っ込めないし、それを求められない。
- \* 余程の事が無い限り民生委員児童委員への相談はない。むしろ近隣から状況が伝えられる。
- \* 近隣住民相互の交流を深める為の美化運動（周辺の清掃・美化運動）が効果的。
- \* 民生委員児童委員の周知は、町内会活動を通じ、アナウンスしているが、直接必要が生じるまでは、興味を持たないし、無関心。（特にマンション等集合住宅居住者）

- \* 葉山町福祉の重点は、理想を追えば総て必要だが財源に鑑み実現可能なものから一つずつ着手する以外ない。
- \* 近所づきあいが特に減っている。特に新しく移住してきた者には積極的に働きかけ、とり込めるように努める必要あり。
- \* 最近、子供も挨拶できない子が増えている。親のしつけ不足も原因するので皆で教えていく姿勢をもつべき。
- \* 民生委員児童委員の認識度については、75%の人が委員会活動や存在そのものを何らかの形で認識している実態が伺える。25%の人が存在そのものを知らないという結果であるが、あえて接触を必要としない立ち位置にいる人達と見て、民生委員児童委員の頭から切り離して良いのではないかと思われる。
- \* 担当地区民生委員児童委員の認識度については、現在見守り訪問活動を既に必要な人には実行しており、行政・地元町内（自治）会やその他老人会・学校区及び福祉施設等との連携を保っていれば、その人が証明等必要事項が発生した時点で改めて接触を求める対応で良いのではないのでしょうか。但し、町内（自治）会等の組織に未加入者への相互アプローチは時間を掛けて認識しあう事からスタートする以外ないと思います。地区担当民生委員児童委員を知らしめる事も大事と思いますが、むしろ4つの部会（高齢者福祉部会・障がい福祉部会・児童福祉部会・主任児童委員部会）のそれぞれの部会活動が活発に行われていることを知らしめる啓蒙の方が必要と思います。民生委員児童委員の顔と名前が全ての人に周知する事は大事な事とは思いますが、何らかの支援を求めて来る人に対応できる体制を崩さなければ、充分だと思えます。
- \* 近隣で何か起きた場合の意識として、安否確認・災害時の避難支援・話し相手などが上位に来ている事自体、福祉に対して求めている姿も個人として遣るべき人間としての姿も下地が現に出来上がっていると思われれます。民生委員児童委員活動の方向づけが、それぞれの人の間で既に持ち合わせていると言う表れの実態と感じます。
- \* 調査方法は、年代や本人の属性・家族環境・立ち位置やその他の状況によって意識内容が異なると思われれますので、あらゆる角度から問題別に集計結果が分析され、我々に求められているものが何であるかを浮き彫りにされるようお願いいたします。

(2) 回答団体名 NPO法人 青い麦の会

【意見】

1. 2つのアンケート結果から感じたこと（見えてきたこと）  
一般住民に限らず、高齢者・障害者も公助一辺倒ではない、地域住民同士の助け合いを希んでいると感じた。  
但し、個人の自立を尊重している形であることを条件としている。
2. 地域で共に支え合いながら生きていきたいという意識の高さを実生活で実現できるようにする為に、公的福祉施策の充実を図ると共に、今あるサービス＝町福祉課、社会福祉協議会、サービス事業所、民生委員等が担っている活動（仕事）内容を更に周知を図ることがよいと思う。
3. 防災対策  
まず、公的機関で、救援対策・体制の確立を図って欲しい。  
その後、公助の及ばない部分での共助を積極的に住民に働きかけてほしい。
4. 問題点として一点  
アンケート結果2によると、「経済面での悩み」を持つ人が多い、ということ。  
このことは、一住民として、生活面においても、精神面においても、自立、自尊、他者との対等意識を損なうものであると思う。

( 3 ) 回答団体名 湘南の凧

**【意見】**

問10、地域活動に参加していないが、61.3%あるが、問11-2では、興味はあるが、活動が見つからない17.2%、地域活動に関する情報がない15.2%あり、合計で27.4%になる。

町民に合った情報が提供できれば、地域活動の参加率がのびると考えられ、ニーズと町民の思いのマッチングが大切。

その事は、問15で困っている人がいると手助け出来ますかの回答で、はいが83.9%あることからわかる。

上記の事は、ボランティア(問20～問22)についても同じことがいえると考えられる。又、近所づきあいが減っていることを問題視しており、きっかけと情報の大切さがここでもわかると思います。

(4) 回答団体名 葉山町手をつなぐ育成会

【意見】

福祉計画では 支援者・ボランティアの拡大  
支援を受ける人の意識の変換を計る  
上記、をどの様な方法で拡充するか方策を設定する。

問20でボランティア活動した事がない、64.1% (500名アンケート)

問21-2 ボランティアに興味・関心がない...7.5%

身近に活動出来るものがない...11.6%

人と接するのを好まない...4.5%

解決には、問22 学校教育の一環とする...21.9%

子供ボランティアの活発化...7.8%

人材の育成...8.8%

学校でのボランティア活動の評価点の拡大

現在活動している子供ボランティアのリーダーの支援拡充

問13-2で隣近所の支援を受けたくない...24.5%

その理由として問13-2-1「気を使うのが嫌だ」...34.5%

「困ったら人の助けを借りる」に人の気持ちを変える。

若い人には、学校教育で教える。年をとった方には、様々な広報媒体を使って根気よく伝える。

有償ボランティアの考えを伝えて「気を使う」を解消させる。活発に活動している人からの口伝えも活用する。

( 5 ) 回答団体名 堀内地区小地域福祉活動懇話会

【意見】

- \* 地域活動...地域活動に関する情報がないの回答が15.2%有、町内会の役員として責任を痛感した。今後はあらゆる機会に連携を取りたいと思う。
- \* 隣近所の手助け...83.9%の方がはいと回答し安堵している。その一方で隣近所の方の支え介助を受けることに関してのデータが非常に気になる。
- \* 担当の民生委員...町内会役員に入れていない所があるのかな？鑑摺は役員になっている。
- \* アンケート調査結果で地域に密着している地区とそうでない地区の差が出ていると思う。今後は葉山町で行われている行事の情報を町全体にお知らせし、交流を計るよう努力していきたい。

## 第4章 地域福祉に関する課題

葉山町における地域福祉を取り巻く社会環境は、地域における人と人との交流の減少や近所づきあいの煩わしさ、個人情報保護やプライバシーの意識の高まりなどにより、町民相互による助け合いの機能が弱まるなど、厳しい状況にあります。

しかし、平成24年7月に実施した「葉山町地域福祉計画 策定に関するアンケート調査(町民500名抽出)」では、「これからの葉山町の福祉は何を重点にすべきだと思いますか」、の問いに対し、「住民がお互いに助け合えるまちづくり」(26.7%)、「気軽に相談できる人、集まる場所の充実」(16.6%)、「在宅福祉を支えるサービスの充実」(15.7%)の順で回答した人が多く、合計で約6割となっています。

このアンケート調査の結果を踏まえ、高齢者や障害者をはじめ、町民誰もが尊重され、人との相互理解を深め、顔の見える社会的な繋がりを持ったまちづくりを進め、町民が安全・安心に生活を送ることができる社会を実現していくために、地域福祉に関する課題として、次の3点を掲げました。

### 1 町民がお互いに助け合えるまちづくり

アンケート調査の「地域の支え合いの仕組みづくりで、地域の人たちが協力して取り組んでいくべきと思うことはどんなことですか」、の問いに対し、「災害時の助け合い」(27.1%)、「ひとり暮らし高齢者(高齢者世帯を含む)支援」(22.3%)、「子育て支援」(10.3%)、「障害者支援」(7.0%)という回答の順であり、この4項目で6割強となっています。核家族化や少子高齢化が進行している中、町民同士がお互いに助け合う気持ちは高いことが伺われます。

町民がお互いに助け合えるまちづくりのためには、関係機関・団体とのパートナーシップのあり方や、町民の助け合い・支え合いの意識の高揚、さらには地域ボランティア<sup>1</sup>の育成等の整備が必要と考えられます。

---

1 地域ボランティアとは、地域住民が、地域社会のために行うボランティア活動。子どもから高齢者までのあらゆる地域住民が、ともに支えあって地域社会で生きていけるように、それぞれが趣味や特技を生かしながら行う社会貢献活動。具体的には高齢者・児童・障害者・環境問題等との関わりがあり、町内(自治)会などの住民組織やNPOなどがその役割を担っていることが多い。

## 2 気軽に相談できる人、集まれる場所の充実

アンケート調査の「日常で困っていることは誰に相談していますか」の問いに対し、「家族」(38.9%)、「友人・知人」(22.2%)、「親戚」(14.7%)、となっています。何でも話せる相談相手は、家族や親戚など身近な人ですが、様々な生活課題について友人・知人をはじめとする地域住民も気軽に話せる大切な相談相手であることが伺われます。誰もが集える身近な町内会館や自治会館などを活用した地域のふれあいの機会、「生きがいミニデイサービス<sup>1</sup>」などの場を活用した、地域住民同士が気軽に相談しあい、懇談の機会を利用して生活課題を解決していくための場づくりが必要です。

また、地域福祉推進の中核としてその役割を担っている社会福祉協議会や、民生委員児童委員などに関し、より一層住民に周知を図ることも課題といえます。

## 3 地域福祉を進めるための基盤づくり

地域福祉を進める上で、行政の取り組み、施策には自ずと限界があり、社会福祉協議会をはじめとする各種の福祉活動を行う団体などとの連携・協働による仕組みづくりが重要であり、また地域福祉活動の担い手の養成や育成の支援が必要となります。

今日、希薄になってきている地域の支え合い・助け合い精神を高め、災害時の助け合いや、高齢者、子育て、障害者支援の取り組みなど、日常的な福祉活動を支える方策として、「自助」「共助」「公助」の理念を基本にした福祉のまちづくりを進めるために、地域福祉を支える基盤の確立が求められています。

---

1 ミニデイサービスとは、デイサービス（介護保険制度の通所介護）を利用するほどではないけれど、健康面で不安のある方や、日中独居の方の交流の場です。地域の人たちが中心になり活動をしています

## 第5章 基本的な取り組みの方向

本計画は、町民・福祉関係者が主体となって地域福祉に関する活動に参加し、地域住民一人ひとりが人と人のつながりを大切にし、互いに支え合い・助け合う意識を高くもち、安全で安心して暮らせるまちの実現を目指すためのものです。

町民一人ひとりが自立した存在であることを前提とする「自助」を基本としつつも、高齢化の急速な進行や少子化などによって社会経済的環境は大きく変化しており、福祉ニーズは多様化・複雑化していることから、「共助」「公助」が求められるようになってきています。そのためには、町民自らが地域における支え合い・助け合いの意識を高めていき、いざという時にはお互いに助け合える良好な「共助」の人間関係を日頃から築いていくことが必要です。

また、町の福祉行政は、町民の生活を支えるセーフティネット<sup>1</sup>としての「公助」の役割をきちんと果たすことを通して、町民自らが取り組む「自助」「共助」を支え、補完することが求められます。

### 1 町民がお互いに助け合えるまちづくり

#### (1)関係機関・団体とのパートナーシップ<sup>2</sup>

現在、葉山町社会福祉協議会が中心となって、町内（自治）会、民生委員児童委員、婦人会、子ども会、有志のボランティアグループ等との協力により、小地域福祉活動推進組織の設置や生きがいミニデイサービス、ふれあいいいきサロン等の小地域福祉活動が推進されています。

福祉ニーズが増大するとともに多様化する社会において、町民誰もがこのまちで安心して住み続けていくことができるように、各種福祉団体、ボランティア、行政など様々な福祉主体がパートナーシップを組み、役割分担を図りながら福祉のまちづくりを目指します。

特に災害時には、既存の災害時要援護者避難支援プランの円滑な活用ができるよう、民生委員・児童委員、町内(自治)会、葉山災害ボランティアネットワーク及び町の防災担当と協力し、連携体制強化の調整、確認を進めるとともに、葉山町社会福祉協議会とのパートナーシップを発揮してまいります。

---

1 セーフティネットとは、「安全網」と訳され、網の目のように救済策を張ることで、全体に対して安全や安心を提供するための仕組みのことです。

2 パートナーシップとは、協力関係、協働や提携のことです。

## (2) パートナーとともに町民の支え合い・助け合いの意識を高める

アンケート調査の結果では、地域活動への参加状況について、「参加していない」と答えた方が6割を超えています。参加していない理由については、「仕事を持っているので時間がない」(27.5%)、「興味の持てる活動が見つからない」(17.2%)、「地域活動に関する情報がない」(15.2%)、「健康や体力に自信がない」(12.7%)、となっています。一方で、「地域にあまりかかわりたくない」(4.1%)、「地域活動は必要がないと思う」(0.8%)と答えた方は小数であり、参加意向のある人は決して少なくない状況と思われます。

こうしたことから、町民がお互いに支え合い・助け合えるまちづくりを構築していくため、日頃からあいさつ・声かけ運動を奨励し、近所づきあい、地域での繋がりを深めるとともに、地域活動参加へのきっかけづくり、参加意欲の高揚に努めていきます。

## (3) 地域ボランティア・NPOの育成等

地域福祉推進のために葉山町社会福祉協議会が設置した「はやまボランティアセンター運営委員会」により、ボランティア活動の相談、発掘、斡旋、連絡調整や各種講座の開催など、さまざまな取り組みが実施されてきました。

しかし、福祉を取り巻く環境が多様化、複雑化する中で、各種福祉関係の組織、団体同士が連携を強化し、それぞれが効果的な活動を行うことで、地域のさまざまな福祉課題の解決や支援の取り組みにつながることを期待されます。

こうしたことから、今後とも、地域福祉の重要な担い手である地域の福祉活動を行う団体や、ボランティア団体間の相互連携及び情報共有ができる環境づくりを進めていきます。

## 2 気軽に相談できる人、集まれる場所の充実

### (1) 関係機関等と協力した取り組み

社会福祉法の中で地域福祉推進の中核と位置づけられている社会福祉協議会を中心に、町内(自治)会、民生委員児童委員、婦人会等、20に上る各関係機関、団体が協力し、小地域における地域福祉の具体的な取り組みが年々活発化してきています。

例えば、生きがいミニデイサービス事業では、食生活、健康づくりや医療講話、さらに技術や知識を持つグループによる介護予防プログラムなどがあり、また他の地域にも活動が拡大するなどしています。

今後とも、いろいろな機関、団体が、横のつながりを見直し、協力し合って取

り組みができるよう支援をしていきます。

## (2) 地域住民による支え合い活動の充実

アンケート調査の結果では、「地域の支え合いの仕組みづくりで、地域の人たちが協力して取り組んでいくべきと思うことはどんなことですか」という問いに対し、「災害時の助け合い」「ひとり暮らし高齢者（高齢者世帯を含む）支援」「子育て支援」「障害者支援」の順で回答が多くあり、この4つの合計が6割を超えている状況となっています。

例えば、地域の駐在所や消防団分団員の協力による一人暮らし高齢者の訪問、また、庭の草刈、家具の修理、犬の散歩等の家事支援を行っている地域や、地域の安全・安心マップを作成し地域住民がお互いに顔が見える地域づくりを目標に活動を始めた地域など、さまざまな活動が展開されています。

葉山町社会福祉協議会の「小地域見守り・支え合い活動」のような支え合いの仕組みづくりが大切です。

このように、障害の有無や年齢にかかわらず、慣れ親しんだ地域でともに支え合い、地域住民が「担い手」となり、自らの地域で協働して福祉活動の推進を図り、地域の福祉力の向上が図られていくよう支援していきます。

## (3) 地域ボランティア・NPO の育成等

地域福祉の推進に当たり、ボランティア活動は欠かすことのできない要素であり、福祉を取り巻く環境が複雑化・多様化する中で、各種のボランティア団体同士が連携を強化し、効果的な活動を行うことは、地域のさまざまな課題解決や、支援の取り組みにつながると考えられます。

こうしたことから、今後とも、地域福祉の重要な担い手である福祉活動を行う団体や、ボランティア団体間の相互連携及び情報共有ができる環境づくりを進めていきます。

# 3 地域福祉を進めるための基盤づくり

## (1) 社会福祉法人等の基盤強化

地域福祉推進の中核と位置づけられる社会福祉協議会に対し、町ではこれまでも組織体制の強化や活動拠点の整備等に努めてきましたが、福祉ニーズの複雑化・多様化に、より一層対応するため、社会福祉協議会を中心に、民生委員児童委員協議会、町内(自治)会、ボランティア連絡協議会、老人クラブ、婦人会など地域の各種団体が連携した、福祉ネットワーク体制の強化・確立に努めます。

## **(2)地域ボランティア・NPO の育成**

地域福祉の推進に当たり、ボランティア活動は欠かすことのできない要素であり、福祉を取り巻く環境が複雑化・多様化する中で、各種のボランティア団体同士が連携を強化し、効果的な活動を行うことは、地域のさまざまな課題解決や、支援の取り組みにつながると考えられます。

こうしたことから、今後とも、地域福祉の重要な担い手である福祉活動を行う団体や、ボランティア団体間の相互連携及び情報共有ができる環境づくりを進めていきます。(再掲)

## 第6章 計画の推進

「第三次葉山町総合計画」の地域福祉における基本方針として、地域に暮らす誰もがその人らしくいつまでも元気に暮らし続けることができるよう、町民の福祉意識の高揚と理解の促進を図るとともに、参加と協働による地域福祉活動を推進することとしています。

社会福祉法では、社会福祉協議会を「地域福祉を推進する団体」として位置付けおり、本計画を推進するうえで葉山町社会福祉協議会が中核的役割を担わなくてはならない機関となっています。このことから、地域福祉の推進に当たっては、葉山町社会福祉協議会の地域福祉活動計画と連携をとりながら進めていく必要があります。

葉山町社会福祉協議会では、第3次葉山町地域福祉活動計画を策定する際、「小地域活動」等のワーキンググループ<sup>1</sup>を立ち上げて検討してきた経緯があります。

このようなことから、地域福祉を推進する取り組みの1つ目として、町としても現在社会福祉協議会が行っている、小地域活動推進委員会等を支援し、町民、関係団体、行政の協働の取り組みを進めていきます。また、平成25年度には進行管理委員会を立ち上げ、地域福祉の充実に向けて計画の進捗状況の把握や進行管理及び評価に努めていきます。

2つ目として、大規模災害等を想定した葉山町社会福祉協議会の災害ボランティアセンター立ち上げに向けた支援を行っていきます。

さらに、このように具体的な活動を担う葉山町社会福祉協議会が、地域住民、民生委員児童委員、町内(自治)会、老人クラブ、ボランティア、NPO等と協働して、地域に根ざした取り組みがさらに推進するよう町としては支援に努めていきます。

葉山町は「第三次葉山町総合計画」の将来像「海とみどりにひろがる交流 文化のまち 葉山」における目標の一つである「安全で安心して暮らせるまち～共生のまちをつくる～」に則り施策を展開していきます。子ども・高齢者・障害者など地域に暮らす誰もが、その人らしくいつまでも元気に暮らし続けることができるよう、町民の福祉意識の高揚と理解の促進を図るとともに、参加と協働による地域福祉活動の推進に努めていきます。

---

1 ワーキンググループとは、何か問題や課題が発生した際にその解決のために組成されるグループのことです。

### 「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の基本目標

- ・人と人が支え合う地域をつくる
- ・生きがいを持って日常生活を送る
- ・日ごろから介護予防や健康づくりに取り組む
- ・高齢者の尊厳を守り、住み慣れた地域で、安心して暮らせる支援体制をつくる
- ・介護が必要となった場合も安心して生活を送れるよう、質の高いサービスを提供する

葉山町は、ひとり暮らし高齢者や認知症高齢者の増加などに対応するため、ボランティア活動や住民の見守り、支え合いなど様々な地域の資源をつなぐ人的ネットワークづくり、徘徊高齢者 SOS ネットワークの充実、介護を行う家族への支援など、人と人が支え合う地域づくりとともに、地域包括支援センターを中心とした地域の保健・医療・福祉が連携した地域包括ケアシステムの構築を目指します。

また、健康で活力のある「いきいきした高齢者像」を地域で構築していくため、高齢者の自発性に応じた活動を支援していきます。

### 「障害者福祉計画」の基本目標

- ・継続的な保健・医療サービスの提供
- ・地域での自立生活支援の充実
- ・雇用と就労支援の充実
- ・ともに学びともに育つ環境づくり
- ・安心して暮らせる住みよいまちづくり

障害のある人が、地域において、自分らしく自立して生活ができるよう、保健・医療・福祉等の連携を進め、地域生活を支えるネットワークや支援体制の整備についての役割を担う自立支援協議会を活用し、障害福祉に関する支援体制の確立や、町内の社会資源の開発・改善に向け協働で取り組んでいきます。

### 「次世代育成支援行動計画」の基本目標

- ・すべての子育て家庭を支える地域をめざして
- ・子どもと保護者が健康に生きる地域をめざして
- ・子どもが健やかに成長できる地域をめざして
- ・男女が子育てと職業・地域社会活動を両立できる地域をめざして
- ・子育てしやすい地域をめざして
- ・子どもが安全で安心して生活できる地域をめざして

子どもとその家庭を地域全体で支えていくためには、地域全体で子育てを支援していく体制づくりが求められています。このような状況の中、男性の育児への参加の促進や、保護者への子育ての知識や情報の積極的な提供を図るとともに、地域の人々の支え合いの輪を広げていくことが重要です。

また、子どもを育てるという経験は、自らも様々なことを学習し、子どもと保護者とが、ともに育つ機会でもあります。このように、子育てのライフステージの変化に対応して、保健・医療・福祉・教育などの各分野が連携した総合的な取り組みが必要であり、さらには、人権擁護という観点に立って、地域の人々の協力を得ながら、児童相談所などの関係機関と連携し、児童虐待の予防等、子ども達が健やかに成長できるよう支援をしていきます。

### **災害時要援護者支援**

近年頻繁に発生している集中豪雨による風水害や地震災害などから要援護者を守るためには、あらかじめ避難支援体制を確立しておくことが重要です。

葉山町では、災害時要援護者避難支援プランを策定しており、要援護者に関する情報を町内(自治)会、民生委員児童委員及び、消防機関に提供しております。今後も災害時に備え、日頃からの連携強化に努めていきます。

### **終わりに**

地域福祉の活動主体は、地域に暮らす住民一人ひとりです。地域福祉は、「自助」では解決できないことに対し、地域に暮らす住民が「共助」として取り組むものです。住民一人ひとは、誰もが福祉の担い手となり、また誰もが福祉の受け手にもなります。こうした「共助」の取り組み、地域福祉活動に携わる地域住民の取り組みや、地域福祉関係団体の活動を、葉山町はきちんと支えていく役割を担い、福祉関係施設の整備や情報提供など、地域福祉の一層の充実に努めるとともに、様々な担い手が活動しやすい環境づくりに、今後とも取り組んでいきます。

さらに、葉山町は、「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」「障害者福祉計画」「次世代育成支援行動計画」や「災害時要援護者避難支援プラン」の着実な推進を通して、行政による「公助」の役割をきちんと責任を持って果たすことで、葉山町の福祉における「自助」「共助」「公助」の取り組みを形成していきます。

## 資料編

### 1 葉山町地域福祉計画策定委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、葉山町附属機関の設置に関する条例(平成7年葉山町条例第13号)第2条の規定に基づき設置された葉山町地域福祉計画策定委員会(以下「委員会」という。)の組織、所掌事務、運営等に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 委員会は、社会福祉法(昭和26年法律第45号)の規定に基づく地域福祉計画の策定に関する事項を審議し、その結果を報告し、又は意見を建議するものとする。

(委員)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

- (1) 逗葉医師会から推薦された医師
- (2) 逗葉歯科医師会から推薦された歯科医師
- (3) 社会福祉団体の職員
- (4) 関係行政機関の職員
- (5) その他町長が必要と認めた者

2 委員の任期は、計画の策定終了までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会には、委員長及び副委員長各1人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(意見等の聴取)

第6条 委員会は、その所掌事務について必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(秘密の保持)

第7条 委員は、委員会において知り得た個人の情報について、他に漏らしてはな

らない。その職を退いた後も同様とする。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、福祉課において処理する。

(委任)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

## 2 葉山町地域福祉計画策定委員会委員名簿

	委員名	所属団体等	任期
委員長	臼井 正樹	神奈川県立保健福祉大学	平成24年6月1日から 平成25年3月31日まで
副委員長	二瓶 東洋	逗葉医師会	平成24年6月1日から 平成25年3月31日まで
委員	土方 周	逗葉歯科医師会	平成24年6月1日から 平成25年3月31日まで
委員	三橋 政昭	一般公募	平成24年6月1日から 平成25年3月31日まで
委員	青木 淑乃	一般公募	平成24年6月1日から 平成25年3月31日まで
委員	佐藤 弘美	神奈川県鎌倉保健福祉事務所 保健福祉課長	平成24年6月1日から 平成25年3月31日まで
委員	加藤 智史	葉山町社会福祉協議会 事務局長	平成24年6月1日から 平成25年3月31日まで
委員	稲山 孝之	葉山町保健福祉部長	平成24年6月1日から 平成25年3月31日まで

### 3 葉山町地域福祉計画策定過程

	開催日	主な議題
第1回策定委員会	平成24年6月28日	1 委員長及び副委員長の選出 2 委員会の運営について 3 アンケート調査(案)について
平成24年7月6日アンケート発送(無作為抽出500名) 平成24年7月30日から8月1日アンケート配布(サービス利用者264名)		
第2回策定委員会	平成24年8月30日	1 アンケート調査結果について 2 今後のスケジュールについて
第3回策定委員会	平成24年11月8日	1 計画内容審議 2 パブリックコメント案の検討
平成24年12月25日から平成25年1月24日 パブリックコメント実施		
第4回策定委員会	平成25年2月7日 予定	1 パブリックコメント結果 2 計画内容審議
平成25年2月予定 議員懇談会		
第5回策定委員会	平成25年3月予定	1 最終案のまとめ